



令和元年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 日 本 基 礎 技 術 株 式 会 社  
代 表 者 名 取 締 役 社 長 中 原 巖  
(コード番号 1914 東証 第 1 部)  
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員 事 務 管 理 本 部 長 尾 崎 克 哉  
(TEL 03 - 5365 - 2500)

### 特別損失(個別)の計上および第 2 四半期累計期間の業績予想と 実績値との差異に関するお知らせ

当社は、令和 2 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別決算において特別損失を計上するとともに、令和元年 5 月 15 日に公表しました令和 2 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と本日公表の決算値との差異について下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 特別損失の計上について

(投資損失引当金繰入額)

第 2 四半期累計期間の個別決算において、連結子会社に対する関係会社株式評価損 88 百万円および関係会社貸倒引当金繰入額 86 百万円を特別損失として計上いたしました。

なお、個別財務諸表上にて特別損失として計上いたしますが、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

#### 2. 業績予想との差異

令和 2 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の差異 (平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり四 半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 11,000	百万円 150	百万円 200	百万円 50	円 銭 1.86
実績値 (B)	10,418	518	645	416	15.53
増減額 (B-A)	△582	368	445	366	—
増減率 (%)	△5.3%	245.6%	222.5%	733.1%	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 31 年 3 月期第 2 四半期)	11,072	△10	125	△17	△0.64

令和 2 年 3 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値の差異 (平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半 期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,000	百万円 300	百万円 100	円 銭 3.71
実績値 (B)	9,715	802	404	15.07
増減額 (B-A)	△285	502	304	—
増減率 (%)	△2.8%	167.6%	304.2%	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 31 年 3 月期第 2 四半期)	9,764	418	2	0.09

### 3. 差異理由

#### (第2四半期累計期間の個別業績)

個別業績につきましては、手持ち工事の着工遅れ等により、売上高は前回予想から 285 百万円減少しました。

利益面につきましては、国内支店の大型工事が順調に進んだことから、営業損益が計画を上回り、また、受取配当金などの営業外収益の増加により経常利益は前回予想から 502 百万円の増加となりました。

四半期純利益は、特別損失に關係会社株式評価損 88 百万円および關係会社貸倒引当金繰入額 86 百万円を計上したため、前回予想からの増加額は 304 百万円となりました。

なお、個別財務諸表上にて特別損失として計上いたしますが、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

#### (第2四半期累計期間の連結業績)

上記個別業績の差異および、国内子会社の売上高が計画を下回り、売上高は前回予想から 582 百万円減少しました。

利益面においては、個別業績の差異理由の他、国内子会社で工事の着工のずれ込みで、売上高および営業利益が計画比減少したものの、米国現地法人において前期以前の完成工事で条件変更に伴う工事金の回収が進み、損失額を抑えることができました。

その結果、前回予想から、営業利益で 368 百万円、経常利益で 445 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益で 366 百万円それぞれ増加しました。

### 4. 通期業績予想

令和 2 年 3 月期の通期業績予想につきましては、令和元年 5 月 15 日に公表しております予想数値から変更はありません。

以 上